

## 1. 概要

政権発足後、最大の山場と見られていた9月において、キルチネル大統領は、地方選挙において最も重視していたブエノスアイレス市長選挙及びミシオネス州知事選挙に勝ち、また垂に有利な形でIMFと中期プログラムの合意に至ったことで、国民の更なる支持獲得、政治基盤の強化に成功した。軍事政権期の人権侵害に関しては、議会が免責法を無効としたのを受けて、複数の事案の訴追手続きが再開された。社会問題では、ブエノスアイレス市郊外で誘拐事件が多発し、国民の治安を不安視する声が高まった。

外交面では、キルチネル大統領は、国連総会に出席するために訪問した米国で、伯、墨首脳と会談し、二国間問題を中心にイラク問題など多岐に渡るテーマに関して意見交換を行った。また、総会での演説では、国際社会に対して債務返済のための支持を求めた。

## 2. 内政

### (1) 地方選挙

#### (イ) サンタフェ州

9月7日、州知事選挙、連邦議会の上院議員・下院議員選挙が実施された。州知事選挙では、レマス方式（同時二重投票制度）の恩恵を受けて、ペロン党のオベイデ候補が、社会主義者党のビネル候補を破って勝利した。連邦議会の上院議員改選選挙（定数3議席）ではペロン党が2議席、社会主義者党が1議席を、連邦議会の下院議員改選選挙（定数10議席）では、ペロン党が6議席、社会主義者党が3議席、共和国平等党が1議席を獲得した。

#### (ロ) ブエノスアイレス州

14日、州知事選挙、連邦議会の下院議員改選選挙が実施された。州知事選挙では、現職のペロン党候補であるソラが、得票率43.30%を獲得し、二位のパーティ連邦主義者同盟党候補（12.19%）に30ポイント以上の差をつけて圧勝した。以下、リコ・ブエノスアイレス人民戦線（11.49%）、ストルビセル急進党候補（9.07%）、ライムンディ共和国平等党候補（8.32%）と続いた。また、連邦議会の下院議員改選選挙（定数35議席）では、ペロン党が19議席、ブエノスアイレス人民戦線が5議席、急進党及び共和国平等党が4議席、連邦主義者同盟党が3議席を獲得した。

#### (ハ) ブエノスアイレス市

14日、市長選挙の決選投票が実施され、現職のイバラ候補が得票率53.46%を獲得し、第一回投票で一位であったマクリ候補（46.54%）に逆転で勝利した。

#### (ニ) サンタクルス州

14日、州知事選挙、連邦議会の下院議員改選選挙が行われた。州知事選挙では、与党ペロン党のアセベド候補が得票率70.85%を獲得し、マルティネス急進党候補（27.91%）に圧勝した。連邦議会の下院議員改選選挙（定数2議席）では、ペロン党が議席

を独占した。

(ホ) チャコ州

14日、州知事選挙、連邦議会の下院議員改選選挙が実施された。州知事選挙では、与党急進党のニキシユ候補が得票率53.09%を獲得し、カピタニッチ・ペロン党候補(41.10%)を破った。連邦議会の下院議員改選選挙(定数3議席)では、急進党が2議席、ペロン党が1議席を獲得した。

(ヘ) フファイ州

14日、州知事選挙、連邦議会の下院議員改選選挙が行われた。州知事選挙では、現職のフェルネル・ペロン党候補が得票率55.89%を獲得し、二位のモラレス急進党候補(35.11%)に20ポイント以上の差をつけて圧勝し再選を果たした。連邦議会の下院議員改選選挙(定数3議席)では、ペロン党が2議席、急進党が1議席を獲得した。

(ト) ミシオネス州

28日、州知事選挙、連邦議会の下院議員改選選挙が行われた。州知事選挙では、現職のロビラ革新党候補(キルチネル派)が得票率47.83%を獲得し、プエルタ・ペロン党候補(32.98%)に勝利した。連邦議会の下院議員改選選挙(定数4議席)では、革新党が2議席、ペロン党が2議席を獲得した。

(チ) ネウケン州

28日、州知事選挙、連邦議会の下院議員改選選挙が実施された。州知事選挙では、現職のソビッチ・ネウケン人民運動党候補が得票率56.16%を獲得し、ドウデビッチ・ペロン党候補(19.81%)に圧勝した。連邦議会の下院議員改選選挙(定数2議席)では、ネウケン人民運動党が議席を独占した。

(2) 軍事政権期の人権侵害

(イ) 1日、カニコバ・コラル連邦予審判事は、西政府からガルソン予審判事の身柄引き渡し請求は送達しない旨の書簡を受け取った後、身柄拘束中の40名(元軍人39名及び民間人1名)の釈放を命じた。

(ロ) 1日、高等裁判所(連邦首都区)は、議会が免責法を無効としたのを受けて、陸軍第一軍団及び海軍機械学校が関与した事案の訴追手続きを再開することを決定した。

(ハ) 16日、トレス連邦予審判事は、海軍機械学校(通称ESMA)による誘拐、拷問、殺人に関与した疑いでアスティス元中佐及びアコスタ元少佐を逮捕した。その他にも、同様の容疑で退役軍人11名(内4名は死去)及び元海上警備隊員2名に対して逮捕命令が下された。17日には、同判事は、アスティス元中佐及びアコスタ元少佐を起訴し予防拘禁の措置を科した。

(ニ) 22日、ガルソン連邦予審判事は、1977年の4名の誘拐、拷問、殺人に関与した容疑で、陸軍第三軍団の長であったルシアノ・メンデス元少将を逮捕し、元軍人4名及び諜報機関関係者1名(内2名は死去)に対して逮捕命令を下した。

(ホ) 30日、最高裁判所は、議会が無効とされた二つの免責法の合憲性の審議に関して、刑事無効裁判所に送付することを決定した。

### 3. 外交

#### (1) キルチネル大統領の国連総会出席

キルチネル大統領は、9月23日から26日にかけて、第58回国連総会に出席するため米国を訪問した。同行者は、クリスティーナ夫人（上院議員）、ビエルサ外相、アニバル・フェルナンデス首相、ゴンサレス・ガルシア厚生相であった。

#### (イ) 米国

23日、キルチネル大統領は、ブッシュ大統領主催の昼食会で、ブッシュ大統領と約10分間会話した。又ニェス報道官によれば、ブッシュ大統領は、IMFとの合意について祝意を表明すると同時に、民間債権者とも同様の毅然とした姿勢で臨むようアドバイスした。

#### (ロ) 伯

24日、キルチネル大統領は、ルーラ伯大統領と一時間以上に亘って会談した。両国首脳は、二国間関係の重要性を確認し、10月16日に予定されているルーラ大統領の訪亜の際に、二国間の地域統合を具体的に進めるための文書に調印することで合意した。また、ルーラ大統領から亜がIMFとの合意に至ったことに対し祝福の意が表明された。

#### (ハ) 墨

24日、キルチネル大統領は、フォックス墨大統領と昼食を共にし、二時間に亘って懇談した。会談において、キルチネル大統領は、亜とIMFとの交渉における墨の支持に感謝の意を表明した。また、両国首脳は、両国間のFTA交渉を前進させることで合意したほか、WTO閣僚会議の結果、イラク問題について意見交換を行った。

#### (二) 国連

25日、キルチネル大統領は、アナン事務総長と30分間会談した。右会談において、キルチネル大統領は、イラク危機における事務総長の対応を賞賛するとともに、多国間主義を強く支持する姿勢を強調した。また、亜は国連分担金7800万ドルを滞納しているため今後投票権を失う可能性があることについて、今年末まで2200万ドルを支払う予定である旨表明した。

#### (ホ) 国連総会での演説

25日、キルチネル大統領は、国連総会において15分間演説を行い、国際社会に対して債務返済のための支持を求めたほか、国連機能の強化、グローバリゼーション、貿易、人権、テロ、マルビーナス領有権問題について発言した。テロに関しては、亜は国際テロの新しい脅威に立ち向かう必要性を共有していると述べ、国際社会の協調的、多元的行動によってテロを減少させることができると強調した。また、フォークランド（マルビーナス）領有権問題については、国連が英国による植民地状態であると認識していることを前提にし、英国が再交渉に向けて積極的な行動をとるよう要求した。

#### (ヘ) その他

滞在中、キルチネル大統領は、モハメド6世モロッコ国王（23日）、ブーテフリカ・アルジェリア大統領（24日）、リュートル・エストニア大統領（24日）と会談したほか、外交問題評議会で演説を行った。

## (2) イラン

イスラエル共済会館（AMIA）爆破事件でソレイマンプール元駐亜イラン大使が英国で逮捕されたのを受けて、バハルバント外務省法務部次長を団長とするイラン代表団は9日、亜を訪問し、ガレアノ同事件担当判事、外務省のバルデス大臣室長、マルシエ司法問題担当局長と会談した。右会談において、亜側からまず亜の司法制度の説明がなされ、イラン代表団からは、同元大使の逮捕に関して懸念が表明された。それに対して、亜は、右逮捕は英司法当局の問題であり、同問題の解決は英司法当局の責任であると述べた。また、ビエルサ外相は、会合の冒頭に数分間だけ同席し、イラン代表団に挨拶した。

## (3) ウルグアイ

11日、ドゥアルデ前大統領は、訪問先のモンテビデオでバジェ大統領と会談し、メルコスール特に創設される常任委員会に関して意見交換を行ったほか、亜とIMFとの交渉におけるウルグアイの支持に謝意を表明したキルチネル大統領の書簡を手交した。

## (4) 要人来往

### (イ) 来訪

21、22日 ソマビアILO事務局長

25日 Benedita Da SILVA伯社会開発相

### (ロ) 往訪

8、9日 ビエルサ外務大臣、WTO閣僚会議の準備会合に出席するため伯へ

10-14日 ビエルサ外務大臣、WTO閣僚会議に出席するため墨へ

18日 ラバーニャ経済大臣、IMF・世銀年次総会に出席するためアラブ首長国連邦へ

23-26日 キルチネル大統領及びビエルサ外務大臣、国連総会に出席するために米国へ